第 2 学年技術·家庭科家庭分野学習指導案

日 時 平成27年11月11日(水)

場 所 八幡平市立西根中学校 2年1組教室

学 級 2年1組 (男子17名女子18名 計35名)

授業者 渡邉 幸子

1 教材名

|2| 快適に住まう 2 安全な住まい

2 教材について

(1) 生徒観

家庭科の学習には、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。その反面、毎日の生活は部活動や学習に時間が取られ、家庭の仕事に関わっている時間や機会が少なく、衣食住のほとんどを家の人にやってもらっている状態である。また、家庭での手伝いについても、全くやらない生徒と毎日食事を作っている生徒との経験の差は大きい。そこで授業では、実験や調査、視聴覚教材等を使って、どの生徒も自分の生活に関心を持ち、家庭での実践につなげることができるように授業に取り組ませたい。

(2) 教材観

② 快適に住まうでは、住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分の家族の住空間に関心を持ち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫することをねらいとした題材である。

小学校での整理整頓、清掃の仕方・季節の変化に合わせた生活の大切さについての学習をふまえ、 中学校では家族の安全を考えた室内環境の整え方について考え、安全で快適に住まうための工夫 を考えさせていきたい。

言語活動については、生活における課題を解決するために、資料、既習事項、個々の経験を基に考え、よりより生活につながる工夫を引き出すために小グループでの話し合い活動を設定したい。

(3) 指導観

住居の基本的な機能を知るために、簡単な住空間の構想を扱う。また、各自の家族構成や経験が異なることから、モデルの家族を使って授業を進めていき、まとめでは、自分の住生活についての振り返りをさせたいと考える。まず、住まいの住空間と生活行為とのかかわりについて考え、住居についての基本的な役割について分かるように指導していきたい。

また、家族が安全に暮らしていくための室内環境の整え方や備えについて知り、家庭内の事故の防ぎ方、自然災害、空気調整、音と生活などの視点から快適に暮らしていくための工夫をさせていきたい。

言語活動を通して、自分の考えを持ち、さらに互いの考え方に触れるグループでの話し合いの中で、考えを広げたり、深めることができると考えた。これにより、住生活をよりよくするための工夫につなげていきたい。

3 題材の目標

住居の機能と住まい方に関する学習をとおして、自分や家族の住空間に関心を持ち、安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにする。また、布を用いた物の制作を通して、自分の家族の住生活を豊かにするための工夫ができるようにする。

4 題材指導計画と評価計画

時	超初11等时四 5 叶侧时四	評価規準			
間	学習課題	生活や技術への	生活を工夫し想	生活の技能	生活や技術につ
		関心・意欲・態度	像する能力		いての知識・理解
1	1①住まいの働き	住まいの役割に			住まいの役割に
	住まいの働きと、住ま	ついて関心を持			ついて理解して
	いに必要な空間と役割	って取り組んで			いる。(テスト)
	について知ろう	いる。(観察)			
	言語活動	・住まいの役割について、根拠を明らかにした*			(個人)
2	②共に住まう	住居と生活行為			住居の基本的な
	住まいの空間と家族	とのかかわりに			機能について理
	の生活行為とのかかわ	ついて関心をも			解している。
	りを考えよう。	って取り組んで			(テスト)
		いる。(観察)			
	言語活動	・家族構成と空間のかかわりについて根拠を明らかにした考えを持つ(個人)			
3	2①住いの安全対策		家庭内事故の防		
	誰もが家庭内で安全		止のための課題		
	に生活するためにどう		を見つけ、安全な		
本	すればいいのだろう		整え方住まい方		
時			について考え、エ		
			夫している。		
			(記述)		
	言語活動	・資料より、住まいの安全対策について考える。(個人)			
		・住まいの安全対策について話し合う (小グループ)			
4	②災害への備え		災害への備えの		
	災害の際、安全の住ま		ための課題を見		
	いの整え方や備えはど		つけ、安全な整え		
	うあればいいのだろう。		方住まい方につ		
			いて考え、工夫し		
			ている。(記述)		
	言語活動	・資料より、住まいの災害対策について考える。(個人)			
		・災害対策について話し合う (小グループ)			

5	3①室内の空気調節	快適な室内環境			快適な室内環境
	室内の空気調整につ	のために空気調			のために空気調
	いて学び、健康に配慮し	整に関心を持ち			整について、健康
	た生活をするためには	取り組んでいる。			的な整え方や住
	どうしたらよいか。	(観察)			まい方について
					具体的な方法を
					理解している。
					(テスト)
	言語活動	・資料より、空気調整について考える。(個人)			
		・室内の空気調整について話し合う(小グループ)			
6	②住まいと音		生活の中の音に		
	生活騒音に対し、適切		課題を見つけ、住		
	な防音対策を考えよう。		まい方について		
			考え、工夫してい		
			る。(記述)		
	言語活動	・資料より、住まいの防音について考える。(個人)			
		・住まいの防音について話し合う (小グループ)			

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

家庭内事故の防止のための課題を見つけ、安全な整え方住まい方について考え、工夫している。 【生活を工夫し創造する能力】

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準	言語活動の工夫
生活を工夫し創造する能力	家庭内事故の防止のための	・資料から見つけた課題を自分の言
	課題を見つけ、安全な整え方	葉でまとめる時間を保証する。
	住まい方について考え、工夫	・自分の意見を記入し、グループで
	している。(記述)	話し合う。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	指導と評価	指導上の留意点
導入	1 アンケート結果から住ま	・生徒のアンケート結果から、家	資料1
	いの事故について学習する	庭内の事故について知る。	
8分	ことを知る。【資料提示】	・事故の例などについて触れる。	
	2 学習課題の設定をする。		
	【課題設定】		
	住まいを安全に生	活するためにできる工夫を考えよう	
展開	3 住まいの中の危険な場所	・どこの場所が多いか、どんな年	<u>・</u> ・資料 2
	についてつかむ。【情報分析】	齢層が多いかをつかませる。	
	4 安全な室内になるように	・各自に何ができるか考えさせる。	・グループ活動では
	考える。【思考・判断】	小グループで話し合わせる。	全員が意見を言える
	各自の考えを持ち、小グルー	【工】家庭内事故の防止のための	ように配慮する。
	プで話し合う。	課題を見つけ、安全な整え方住ま	
		い方について考え、工夫している。	
		(記述)	
32	5 話し合ったことを発表す	グループごとに発表する	・他のグループの工
分	る		夫に関心を持つよう
	各グループで話し合ったこと		に意識させる。
	を発表する。		
	・他のグループの工夫に関心を		
	もたせるために、他のグループ		
	の発表で良かったことを発表		
66 1.	させる。		
終末	6 まとめをする。	・家庭内の事故を防ぐための工夫	・出た工夫をまとめ
	・話し合いより家庭内の事故を	をまとめさせる。	ていく。
	防ぐための方法をまとめる。	ウハのケナいっぱっとファルナギ	タウの仕出江の七
	7 学習の振り返りをする。	・自分の住まいでできることを考ってひる。	・各自の住生活の振りない。
10	【表現、振り返り】	えてみる。	り返りが出来るよう
10	・本日の学習より、各自の住生 活を振り返る。		に支援していく。
分	店を振り返る。 ・本時の学習から生かしたいこ		
	とを生徒に発表させる。		
	こで工作に光衣させる。		

(4) 板書計画

2安全な住まい			
①住まいの安全対策		家庭内の事故を防ぐ工夫	振り返り
資料1			
			ı
学習課題			1
住まいで安全に生活するために			J 1
できる工夫を考えよう]
資料2]
事故が多い	年齢層		J ¬
高齢者	省、 幼児		T
どんな事故	:		
	誤えん		